

環境計画学専攻の一年

水原 渉

環境計画学専攻長

本専攻は環境意匠コース(以下:意匠コース)と地域環境経営コース(以下:地域経営コース)から構成されている。学部の方は環境計画学科の2専攻が2学科に独立する方向で進んでいるが、大学院の専攻はこのままの体制でしばらく進んでいく。現在、他研究科との合併など上部からの大学院の再編の主導の動きもあるが、その理念を明確にすることが教員の間から意見として出されている。組織的枠組みなどは案として先行的に示されているが、利点は何かなど、まだ未解明な点も多く、これらを明確にしていく必要がある。

学生の状況

在籍者は環境意匠コースでは D2、D1 各1名、M2以上 19名、M1:20名、環境地域経営コースでは D4:1名、D3:2名、D2:1名、D1:2名、M2以上6名、M1:5名という状況である。意匠コースでは在籍者数が定員に比して多いが、M2以上では留学や実務活動経験のための休学者が何人かいたことによるもので、本年度にはその殆どが修了予定である。

なお日本建築学会計画系論文集に、意匠コース D2の趙聖民君の論文「日本植民統治期における韓国密陽・三浪津邑の都市形成と土地所有変化に関する考察:一旧日本人町に着目して一」が採用されている(計画系論文集 NO.607、P.79、2006年9月)。

また、日本建築学会の大会での発表は、環境意匠コースの在籍生、卒業生合わせて、5名が行っている。

教育

2006年度は、環境意匠コースで昨年度に見直したカリキュラムの実施の年であった。個々の教員の専門性をより生かす方針で、これまで多くオムニバス方式で行われていた授業を見直し、1,2回生混合の授業を促す意味で隔年開講の増設も含めて行われたものである。効果を評価するのはもう少しの時間が必要だが、小さな大学院であって授業選択の幅を広げるための一つの方法と言え、専門的大学院教育を進めていくために効果を期待したい。

この間の大きな動きとしては本県立大学大学院での「近江環人地域再生学座」の設立があった。これは、文部科学省が平成18年度新規課題として募集した「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム(科学技術振興調整費)に採択され、大学と行政等との連携によって地域再生をはじめとする様々な地域課題の解決に貢献する人材の育成を目的とする全学的大学院教育プロジェクトである。

この学座第一期生として、環境意匠コースから6名の院生が合格し、10月から学座に新設された講義、実習カリキュラムでコミュニティ・アーキテクト(近江環人)を目指し、勉学に励んでいる。

これは社会人(大学院には所属しない)も対象としたもので、土曜開講も行っている。大学院の更なる活性化を考えると、留学生と並んで社会人入学も視野に入れる必要がある、このような体制も必要となってくる可能性がある。